

建材試験 センター会報 9

1969

VOL. 5

N O. 9

・プレハブ住宅に思う 加賀 秀治

・Ⅰ 研究報告：高強度波形石綿
スレートの性能試験 勝野 奉幸

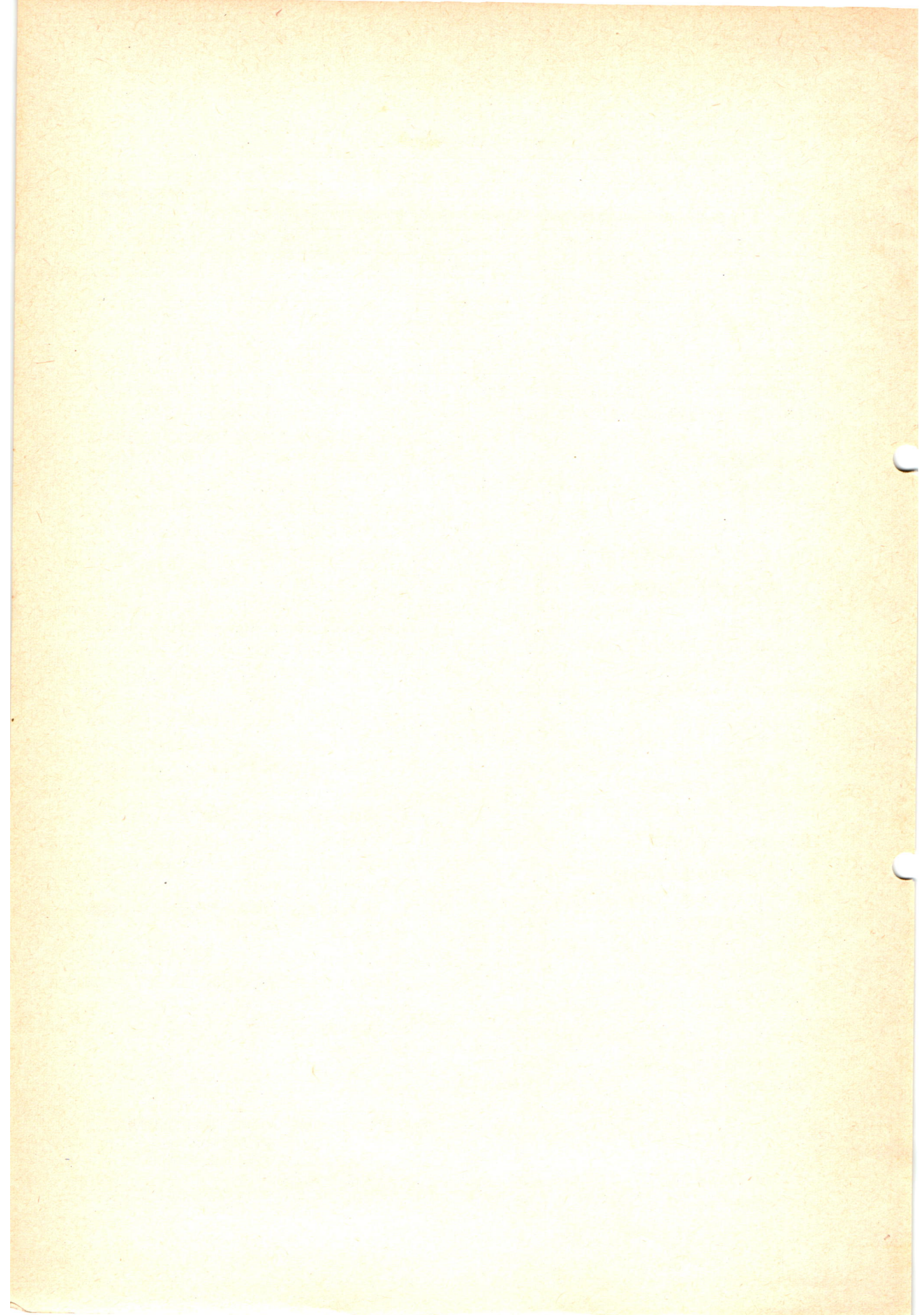
・Ⅱ 試験料金改定

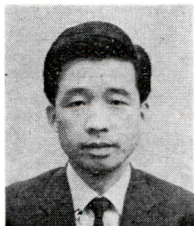
・Ⅲ 業務報告

1. 昭和44年7月度受託状況
2. 会合その他の事項



財団法人 建材試験センター





プレハブ住宅に思う

加 賀 秀 治

わが国でプレハブという言葉が使われ始めたのは、まだ10数年前のことと思う。欧米やソ連では歴史も古く、すでに実用化されていたが、わが国ではやっとその緒についたばかりであり、関係者の間でも組立て建築などと呼ばれる程度の状態であった。それが、今では新聞・雑誌・宣伝広告など各方面で使われるようになり、一種の流行語となっている。しかし、言葉の普及に反して、プレハブという言葉の持つ本来の意味とか目標がかえって不明確となり、誤って解釈されているむきもある。

建築需要の増大、工期の短縮などの要求に対して、建築労務者が年々不足し、質の低下、コストの上昇などをきたす傾向にあるが、これを押えるためには建築生産の工業化をはからねばならない。との観点からプレハブ建築が推進されてきた筈である。とくに住宅建設においてはその必要性が高く望まれている。したがって、プレハブ化はむしろ質の向上を目標としているのに、ときとしてプレハブ住宅という言葉が簡易住宅と同義語に使われるような傾向がある。事実、住宅展示会などでも、プレハブ住宅と名のつて簡易な組立て住宅が売られていた。

これは、そもそもの出発点において問題があったものと考えられる。当時はプレハブ住宅に対する一般大衆の関心が薄く、需要もまったくつかめなかったのも、大量生産によるコストダウンなどのメリットが得られず、止むをえず工事現場の仮設建物とか、短期間の仮り住いを目標とした簡易建築から出発したためであろう。

しかし、これからのプレハブ住宅を考える場合には、居住性に重点を置いた計画が必要である。10数年前には、ただ住めればよいと思っていた人も、今では自動車を持ち廻し、カラーテレビを見るなど他の生活条件が向上してきたので、住いに対しても必然的に高い性能を要求するようになってきている。公団住宅が2DKから3DKに移ってきたのはその一例であろうが、単に建物の広さや形態だけではなく、温湿度、音、光などの環境条件に対する要求も高まってきた。壁に結露が生じたり、すきま風が入ってきたり、隣室の音がもれてきたり、昼間から蛍光灯をつけておかねばならない

部屋があるような住宅はもう嫌われている。今後は冷暖房、給湯などの設備も必要となるであろう。過日、来日した英国の建築視察団を公団の高層分譲アパートに案内したことがあったが、その際、壁厚の薄いことや、暖房、給湯設備がないことに驚きを示していた。欧米ではすでにこれらの設備は常識となっているわけである。

一方、プレハブ住宅は部材をできるだけ工場生産化し、現場での作業をなくすことを目標としているのに、現状ではまだまだ現場で施工しなければならない部分がかなり残っており、何がプレハブなのかわからないものがある。これも過渡期の一現象と思われるが、部材は屋根、外壁、間仕切、床などかなり大きなエレメントとして開発される必要がある。これらの部材は部位別に要求される機能を満たすため、表面材、芯材、接合材などを適当に組合せた複合材料であり、付帯設備類も内蔵されたものとなることが予想される。しかも、これらの部材は規格化された多くの種類を持ち、組合せかたによってバラエティに富んだ空間を作り出せることが望まれる。

これだけでも容易なことではないが、さらに大きな問題はこれらの部材をいかにうまく組立てられるかということである。部材は運搬や組立てを考えると、あまり大きなものとするとはできない。したがって、部材と部材の接合部がどうしてもでてくる。接合部は構造耐力を持たせ、水、音、熱、煙などを完全に遮断し、多少の変形にも追従できるようなものであって、しかも意匠上からも美しく処理されていなければならない。この接合部にうまい手法が開発されなければ、プレハブ化は完成されたということとはできない。

最近、住宅産業は自動車産業に代わるものとして大きくクローズアップされてきた。しかし、現段階ではまだプレハブ住宅は高いということで、大量生産化されるだけの需要を持っていない。長年月を経て築き上げられてきた在来建築手法にとってかわるためには、住宅産業にたずさわる設計者、材料メーカー、施工者などが協力して、新しい技術を開発してゆく必要があることを痛感している。

<筆者：大成建設株式会社技術研究所：工博>

1. まえがき

波形石綿スレートが外壁または屋根材として使用された場合には、一般に設計時に考慮される静的風圧力の外に動的風圧力も検討されなければならない。

本試験は2種類の波形スレート（高強度スレート：1トンスレート、普通大波スレート）を実際の取付け状態を想定し、当センターの動圧風洞試験機に取付け、動圧力を加えて、各試験体のたわみ、破壊状況および取付け部の破壊状況を調べたものである。

2. 試験方法

2-1 試験体寸法

試験体寸法は、動圧風洞試験機の大きさの関係から、約 3.0m×3.5m とし表 1 に示す寸法の波形スレートを組み合わせ、試験体は、普通大波スレートと、1 トンスレートを用了たもの、各 1 体を製作した。

2-2 試験体組立

表 1 試験体製作に用いた波形石綿スレートの大きさ

波形石綿スレートの大きさ (mm)	枚 数
960×2420×6	3
960×1180×6	3
918×2420×6	1
610×1180×6	1

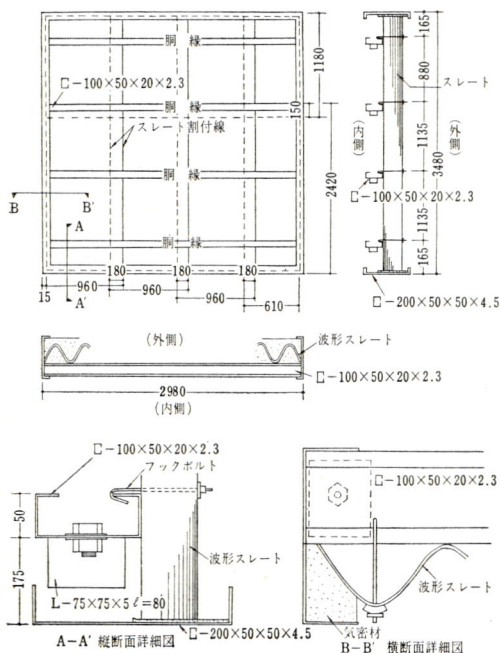


図 1 試験体図 (単位mm)

各種類ごとに、表1に示したスレート8枚を図1に示すごとく組立てた。スレート取付金具の普通大波スレート使用試験体は、胴縁にフックボルトで取付け、また1トンスレート使用試験体においては、試験体を、左右に2等分して、試験体室外側よりみて、左部分はフックボルト、右部分はチャンネルボルトによって胴縁に取付けた。

2-3 試驗裝置

本試験に用いた試験装置は、図2に示す機構を持っており、加圧ブロアと負圧ブロアを同時に運転し、その同量、同圧の調節をアナログ型電子計算機による自動制御によって開閉される連動ダンパーによって行ない、室内圧力を増減して、風圧力を実現させる動圧風洞試験機である。

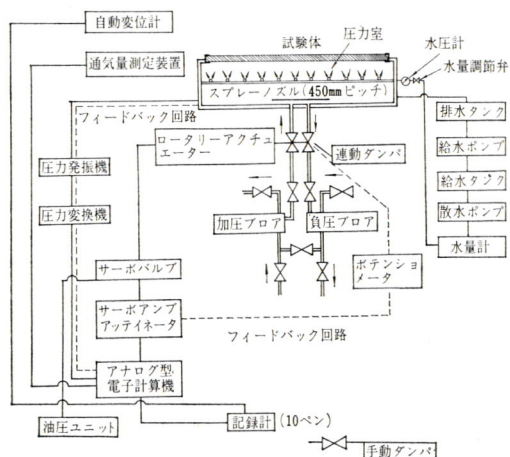


図 2 風圧試験装置機構

風圧試験装置の形式および性能

- (1) 形式 気密函形式動圧型 (2) 最大加圧力 $\pm 1.600\text{kg/m}^2$
(3) 動特性 5. C. P. S (4) 散水能力 $1.5\sim 30\text{L/m}^2\cdot\text{min}$

2-4 試験体取付け

2-2 で組立てた試験体を動圧風洞試験機圧力室開口部（約3.0m×3.5m）に試験体外側を圧力室に向けて、

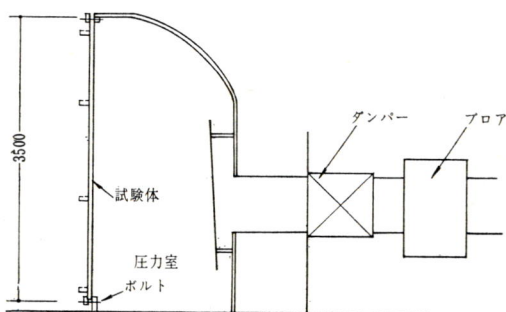


図 3 試験体取付け図 (単位 mm)

垂直にボルトで取付けた。試験体取付け概略を図3に示す。

2-5 載荷方法

試験体への載荷方法は、建築物に対する風害が、最大風速時刻の前後を通じて2時間の間が多いこと、また局部風圧を考慮して、下記に述べる方法をとった。

すなわち表2に示す載荷荷重とし普通大波スレートで最大 340kg/m^2 まで、トンスレートでは 400kg/m^2 までそれぞれ 50kg/m^2 おきに載荷を行なった。載荷方法は正・負両方向とも行なった（正方向＝圧力室内加圧、負方向＝圧力室内減圧）。載荷速度は 1000kg/m^2 の割合で載荷荷重まで上げ、周期を5秒とし、これを各荷重について、1500回くり返した。載荷プログラムを図4に示す。

		単位 kg/m^2							
普通大波スレート	正	50	100	150	200	250	280		
	負	50	100	150	200	250	300	340	
1 トンスレート	正	50	100	150	200	250	300	350	400
	負	50	100	150	200	250	300	350	400

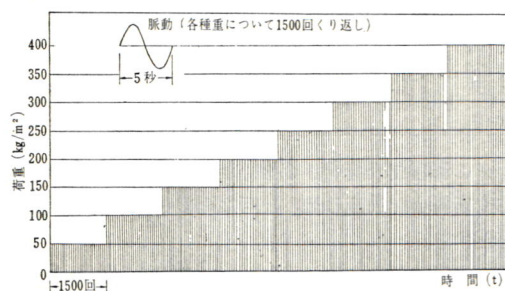


図4 積荷プログラム

2-6 たわみ測定

たわみ測定箇所を図5に示す。図5の番号1, 3, 5, 7, 8, 9は胴縁の2, 4, 6はスレートのたわみ測定点である。たわみ測定には自動記録たわみ計 (1/10 mm) を用いた。

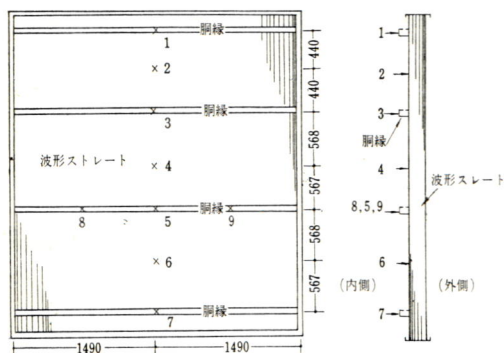


図5 たわみ測定箇所 (単位 mm)

3. 試験結果

3-1 風圧たわみ線図

普通大波スレートの圧力たわみ線図を図6に1トンスレートの圧力たわみ線図を図7に示す。

なお1トンスレートの正圧は 280kg/m^2 まで上がった。図中、実線は負圧時たわみを破線は正圧時たわみを示す。

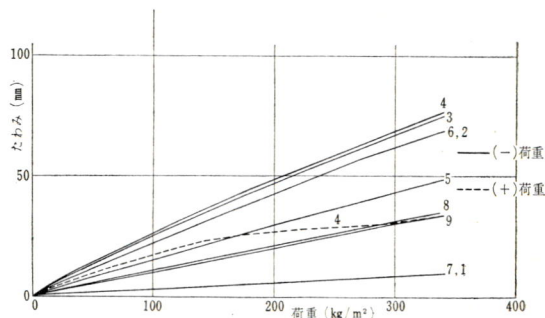


図6 普通大波スレート 圧力たわみ線図

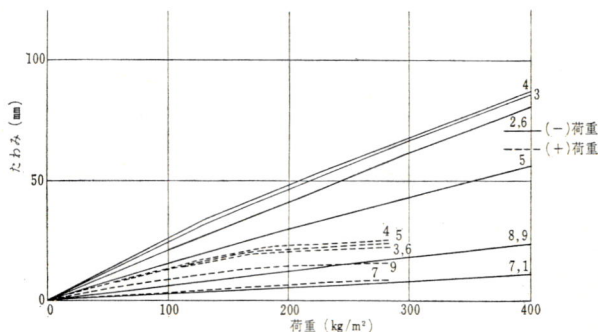


図7 1トンスレート圧力たわみ線図

3-2 スレートおよび取付部破壊

1スレートは負圧 100kg/m^2 荷重の250回くり返しでスレート取付用胴縁のCチャンネルがねじれ変形のため、チャンネルボルトが破壊し、縦方向に亀裂を生じた。チャンネルボルト破壊位置およびスレート亀裂位置を図8に示す。しかしフックボルトでは異常がなかった。また普通大波スレートでは 340kg/m^2 まで異常がなかった。なお負圧の上昇にともない胴縁が回転変形を起し、図9のごとくなった。同時にチャンネルボルト変形状態も図に示す。

4. 結果の検討

4-1 2種類のスレートのたわみ比較

普通大波スレート1トンスレートについて、試験体中央部 (たわみ測定箇所4) のスレートたわみを比較してみると表3のようになる。この結果から、胴縁のたわみを含めた場合、およびスレート自体のたわみ

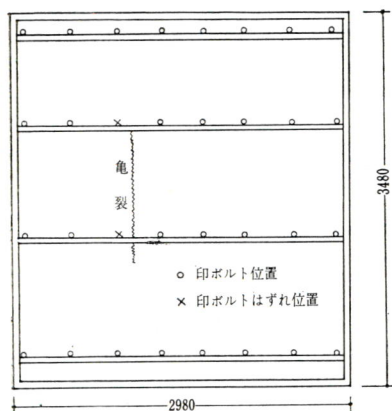


図 8 ボルトは
ずれスレ
ト亀裂位置
(単位 mm)

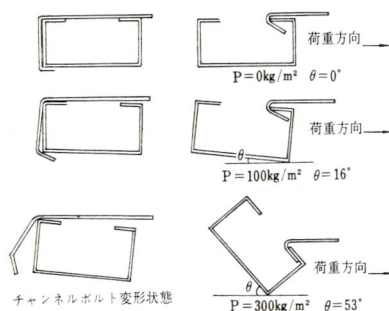


図 9 チャンネ
ル回転図
(下から 2
番目胴縁)
(単位 mm)

ともほとんど差異はないように思われる。また回数による変化もほとんど見られなかった。

表 3 試験体中央部たわみ

単位 mm

圧力差 (kg/m ²)		50	100	150	200	250	300
普通大波 スレート	胴縁のたわみ を含む	14	26	37	49	58	69
	スレート自体	5.5	6	8	10.5	18	19.5
1 トン スレート	胴縁のたわみ を含む	13	25	38	48	57	68
	スレート自体	3	5	8.5	10	17	17.5

(注) 〇 圧力差は負圧 300kg/m² まで比較した。

〇 たわみは各圧力時における最大たわみである。

4-2 取付部の問題

チャンネルボルトは、胴縁の回転とともにねけやすくなるため、フックボルトの方がスレート取付に適しているように思われる。またCチャンネルは図 9 に示すごとく回転変形が大きいため、強風が予想される場合には重量形鋼を使用の方がよいように思われる。これについては試験検討の必要があると思われる。

<中央試験所 技術員 勝野奉幸>

Ⅱ 試験料金改定

当センターが取り扱ってきた試験にかかわる試験手数料は、開設以来すえ置きのまま今日にいたっている

が、これらを改訂せざるを得ない状況になったので新しく新料金を決定した。今回はその一部を記載することとする。

試 験 手 数 料 金 表

No.	JIS	項 目	内 容	試 験 料 金 (円)
1	A 5001	道路用碎石	〇 比重 〇 吸水 〇 すりへり 〇 粒度試験	19,000
2	A 5002	構造用軽量コンクリート骨材	〇 強熱減量, 〇 無水硫酸, 〇 塩化物, 酸化カルシウム, 〇 有機不純物, 〇 安定性, 粒度, 見掛比重	約 (35,000)
	"	"	モルタルまたはコンクリートとして 強さ {モルタル調合 (4 調合) コンクリート調合 (6 調合)}	注: () はそれぞれの内容について 約 (45,000) の試験料金 約 (180,000)
3	A 5003	石 材	見掛比重, 吸水, 圧縮強さ	15,000
4	A 5005	コンクリート用碎石	粒形判定実績率	35,000
5	A 5006	割ぐり石	粒度, 比重, 吸水量, 安定性, すりへり減量	
6	A 5009	陶磁器質タイル	見掛比重, 吸水, 圧縮強さ	9,500
			凍結融解試験, 曲げ摩耗試験	50,000
7	A 5007	衛生陶器	寸法, 外観, 吸水, オートクレーブ (ひび割れ)	
8	A 5210	セラミックブロック	吸水, インキ試験, オートクレーブ	18,000
			寸法, そり又は横ひずみ, 吸水, 急冷ひび割れ試験	35,000
9	A 5212	ガラスブロック	圧縮	
			外観, 圧縮, 急冷試験, 内部ひずみ	25,000
10	A 5403	波形石綿スレート	曲げ試験, 衝撃試験, 吸水, 透水	25,000

No.	JIS	項 目	内 容	試 験 料 金 (円)
11	A 5404	木毛セメント板	曲げ試験 (たわみ) 難燃 2 級 a	24,000
12	A 5410	石綿セメント板	曲げ試験 (たわみ) 衝撃試験, 吸水, 含水率, 透水	25,000
13	A 5413	石綿セメントパーライト板	曲げ試験, 含水率, かさ比重	18,000
14	A 5414	バルブセメント板	曲げ試験, 含水率, かさ比重, 吸水率, 衝撃試験	31,000
15	A 5703	内装用プラスチック化粧ボード類	外観, 直角度, そりもどしやすさ, 曲げ, 衝撃, 乾湿くり返し変形, 耐熱性, 耐薬品性 (耐酸, 耐アルカリ, 耐トルエン, 耐アセトン, 耐インキ, 耐BHC) 引きかき硬度, 難燃性	74,000
16	A 5704	ガラス繊維強化ポリエステル浴そう	厚さ, ひび割れ, じん性, 耐煮沸性, 吸水, 引張, 表面硬度, 満水時の変形, 衝撃, 耐塩酸性	75,000
17	A 5705	床用ビニルタイル	寸法, 直角度, 長さ変化, へこみ, 残留へこみ, たわみ, そり, 加熱減量, 褪色性, 耐薬品性, すべり耐燃性	88,000
18	A 5751	建築用油性コーキング	収縮率, 保油性, スランプ, 付着性, 硬化率, きれつ耐アルカリ性	一般用 夏 用 冬 用 47,000 54,000 56,000
19	A 5752	金属製建具用ガラスパテ	加熱減量, 作業性, 軟度, スランプ, 硬化性, きれつ, 引張付着力	一般用 冬 用 45,000 54,000
20	A 5753	木製建具用ガラスパテ	加熱減量, 作業性, きれつ, 耐候性	53,000
21	A 5905	軟質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 吸水量, 熱伝導率, 難燃性, 吸湿性	52,000
22	A 5906	半硬質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 難燃性, 吸湿性	35,000
23	A 5907	硬質繊維板	比重, 含水率, 曲げ強さ, 難燃性, 吸湿性	35,000
24	A 5908	パーティクルボード	比重, 含水率, 曲げ強さ, はく離抵抗, 木ねじの保持力, 難燃性	47,000
25	A 5909	パーティクルボード化粧板	比重, 含水率, 曲げ強さ, はく離抵抗, 木ねじの保持力, 難燃性	47,000
26	A 6005	アスファルトフェルト	アスファルトの浸透率 1 巻の重量, 1 巻の長さ, 幅, 単位重量, 厚紙に対するアスファルトの浸透率, 引張強さ, 折り曲げ試験, 加熱減量	45,000
27	A 6006	アスファルトルーフィング	1 巻の重量, 1 巻の長さ, 幅, 製品の単位重量, 厚紙の単位重量, 厚紙に対するアスファルトの浸透率, 引張強さ, 折り曲げ試験, 耐熱試験, 被覆物の単位面積当りの重量, アスファルトの浸透状況, 被覆物の灰分	50,000
28	A 6007	砂付ルーフィング	JIS A 6006 に同じ	50,000
29	A 6301	吸音用孔あきせっこうボード	寸法, 曲げ試験, せっこうとせっこうボード用との接着, 難燃性, 吸音特性	50,000
30	A 6302	吸音用孔あき石綿セメント板	寸法, 吸音特性, 曲げ試験, 含水率	40,000
31	A 6901	せっこうボード	含水率, 曲げ試験, 接着試験, 難燃性, 寸法	35,000
32	A 6902	左官用消石灰	化学分析 (CaO, MgO, CO ₂), 粉末度, 粘度, 安定性, 蒸気試験, 硬度試験	48,000
33	A 6903	ドロマイトプラスター	JIS A 6902 に同じ	48,000
34	A 6904	せっこうプラスター	無水硫酸, 粉末度, 凝結時間, 保水率, 曲げ強さ, きれつ, 硬度	64,500
35	A 6906	せっこうラスボード	寸法, 曲げ強さ, せっこうとせっこうボード用原紙との接着試験	20,000
36	A 8652	鋼製型77パネル	寸法, 曲げ試験	28,000
37	A 8951	鋼管足場	緊結金具試験 (すべり試験, 変形)	20,000

No.	JIS	項 目	内 容	試 験 料 金 (円)
37	A 8951	鋼管足場	わく組足場 (鉛直荷重, 水平荷重, はりわくおよび特送わく等)	35,000
38	A 8952	建築工事用シート	引裂強さおよび伸び, はとめ性, 防炎性	18,000
39	A 9502	石綿保温材	寸法, ひもの外径, かさ比重, 熱伝導率, 強熱減量	30,000
40	A 9503	けいそう土保温材	繊維の含有率, 最大吸水率, 含水率, かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ	38,000
41	A 9504	岩綿保温材および鉱さい綿保温材	繊維の太さ, 粒子の含有率, 寸法, かさ比重, 曲げ強さ, 熱伝導率	40,000
42	A 9505	ガラス綿保温材	繊維の太さ, 寸法, かさ比重, 熱伝導率	30,000
43	A 9508	木毛フェルト	かさ比重, 圧縮率, 含水率, 植物性繊維およびきょう雑物混入率, 引張強さ, 熱伝導率	35,000
44	A 9511	フォームポリスチレン保温材	かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ, 耐圧試験, 燃焼試験, 吸水	46,000
45	A 9512	パーライト保温材	かさ比重, 熱伝導率, 曲げ強さ, 線収縮率	50,000

防・耐 火 試 験 料 金 表

規 格	JIS	項 目	加 熱 時 間	等 級	数 量	試 験 料 金 (円)
防 火 構 造	A 1301		30 分	2	2	80,000
防 火 戸	A 1311	屋 外 用	30 分	2	2	90,000
		耐 火 用	1 時 間 2 "		2 2	100,000 120,000
耐 火 構 造	A 1304	壁	30 分		2	100,000
			1 時 間		2	120,000
			2 "		2	140,000
			3 "		2	180,000
		柱	1 "		1	110,000
			2 "		1	120,000
			3 "		1	130,000
		床	1 "		1	110,000
			2 "		1	120,000
			3 "		1	130,000
		は り	1 "		1	120,000
			2 "		1	130,000
			3 "		1	140,000
		注 水・衝 撃				各 10,000

Ⅲ 業 務 報 告

1. 44 年 7 月 度 受 託 状 況

1 受 託 試 験

(イ) 7 月 度 の 工 事 用 材 料 を 除 い た 試 験 依 頼 の 受 託 件 数 は 84 件 (依 試 第 1989 号 ~ 2072 号) で あ っ た 。 そ の 内 訳

内 容 を 表 1 に 示 す。

(ロ) 7 月 度 の 工 事 用 材 料 受 託 件 数 は 総 数 331 件 で , そ の 内 訳 を 表 2 に 示 す。

表 1 依 頼 試 験 受 託 状 況

No.	材 料 区 分	材 料 一 般 名 称	試 験 内 容 の 概 要	件数
1	木材・繊維質材料	化粧合板、軟質繊維板、木毛セメント板、パルプセメント板、木材、段ボール	比重、圧縮試験、曲げ試験、ビーリング試験、含水率、耐水性、耐熱性、収縮、膨張、寒熱くりかえし、難燃性、防火材料試験、吸音等	12
2	石材・造石	石材	圧縮強度、見かけ比重、吸水率	5
3	モルタル・コンクリート	人造軽量骨材、気泡コンクリート、コンクリート床、コンクリート塗り床	ふるい分け、比重、単位容積重量、粒形判定実積率、すりへりスランプ貫入量、凝結試験、圧縮強度、曲げ試験、摩耗性、接着強度、引張強さすべり抵抗、吸水、透水乾燥収縮、耐寒凍結融解	9
4	セメント・コンクリート製品	石綿スレート化粧板	耐水性、難燃性、耐熱性、耐候性、耐薬品	1
5	左官材料	ひる石吹付材	結露試験	1
6	ガラス・ガラス製品	複層ガラス、ガラス綿保温板、珪酸カルシウム	曲げ強度、かさ比重、繊維太さ、接着強度、露点温度の測定、耐水性、熱伝導率、耐候性	3
7	鉄鋼材料	棒鋼、ボルト、インサート	曲げ強度、接着せん断試験、引抜強度	6
8	非鉄金属材料	アルミニウム製屋根かわら棒	耐水圧、曲げ強度、水密性	2
9	家具・建具	アルミニウム合金製サッシ、鋼製事務用いす、耐火庫、スチールドア、キャビネット	耐風水圧、荷重試験、塗膜試験、水密性、気密性、防火試験、遮音、引出し繰返し試験、防火材料試験	12
10	プラスチック・接着材	ポリウレタン、発泡ポリスチレンエポキシ系キャスト、化粧板	圧縮・曲げ強度、せん断、衝撃試験、摩耗試験、極部圧縮、耐キレツ、はくり、吸水性、透水性、耐水性、耐湿性、熱伝導率、耐候性	9
11	塗料	メラミン系、エポキシ系	耐候性、耐塩水性、耐湿性、難燃性	2
12	皮膜防水用材料	アスファルト、アスファルトコンクリート	比重、針入度伸度、マーシャル試験、軟化点、蒸発量	1
13	シール材	油性コーキング	作業性、軟度、スランプきれつ、硬化率、保油性、耐アルカリ性	2
14	複合材（パネル）	アルミ複板、プレキャストコンクリート	荷重、衝撃試験、耐水性、耐湿性、耐火面内せん断、耐風水圧、水密性、気密性	3
15	耐火材料	屋根、梁、防火戸、壁床	防火、耐火試験	16
合 計				84

表 2 工 事 用 材 料 受 託 状 況

試 験 の 内 容	受 付 場 所		合 計
	中央試験所	本 部 (銀座事務所)	
コンクリート・シリンダー圧縮試験	179	42	221
鋼材の引張、曲げ試験	29	72	101
骨 材 試 験	3	3	6
そ の 他	2	1	3
合 計	213	118	331

2. 会合その他の事項

(1) 工業標準原案作成関係

○フローヒンジの開閉試験方法 第1回本委員会
6月30日

委員会構成22氏、委員長に千葉大学の波多野教授を選出、ドア開閉金物（ドアチェック）の試験方法 JIS 原案と本件とを1本化することを前提として規定すべき事項と問題点の摘出をし、さらに各委員より意見書の提出を求めこれらを小委員会に回付し検討することが決まった。

○引戸用レール (JIS A 5509) 改正 第1回本委員会
6月30日

委員会構成14氏、委員長に波多野千葉大学教授を選出。現行規格を中心にして改正案をつくることにし、

板製、埋込みレールは考慮外とした。寸法、材質等に関する現行 JIS から加除すべき要点とメーカー側委員提出の改正案につき審議した結果小委員会で検討を行なうことが決まった。

○J 番の繰返し開閉試験法} 第1回本委員会

○ステンレス普通丁番 } 6月30日

各々の委員構成20氏委員長に千葉大学の波多野教授を選出。規定すべき事項について検討「丁番の繰返し、開閉試験方法」についてはメーカー側より関係資料の提出をもとめ、「ステンレス普通丁番」については「ステンレスぎぼし付丁番」として原案を作成することとし、各々に小委員会を編成して実験計画、素案を作成することが決まった。

○鋼製普通丁番 (JIS A 5501) 改正} 第1回本委員会

○鋼製自由丁番 (JIS A 5502) 改正 } 6月30日

各々の委員構成20氏、委員長に千葉大学の波多野教授を選出。改正要旨を確認し、現行 JIS を中心として改正案を作成する。試験方法と性能値を規定化する。各々に小委員会を編成し素案作成することが決まった。

○床用ビニルシート 第1回本委員会 7月8日

委員会構成19氏、委員長に東北大学の栗山教授を選出。規定すべき事項を審議し、原案作成に当たっての間

題点、メーカー委員提出の試験方法を研究し、関連文献およびサンプル収集など基礎資料を整えることが決まった。

○建築材料の摩耗試験方法（研摩紙法）

第1回本委員会 7月14日

委員構成26氏，委員長に東京大学の西教授選出。準備会において討議された問題点，試験対象材料等を提示して検討。関係資料の収集と，小委員会を編成することが決定した。

○防水工事に用いられるコンパウンド

第1回本委員会 7月12日

委員会構成20氏，委員長に千葉工業大学の大島教授を選出。規定すべき事項を審議，とくにアスファルトコンパウンドの定義，配合割合などを定める必要性を確認し，関連資料の収集を行ない，設定した幹事会，小委員会で調査検討と素案の作成に当ることになった。

○キャストブル気泡コンクリートの長さ変化試験方法

第2回小委員会 7月1日

原案検討。測定器および供試体保存温度を決定した。

第1回本委員会 7月15日

委員会構成20氏，委員長に工学院大学の狩野春一教授を選出。原案について逐条審議し修正箇所と試験方法を検討。実験実施のことが決定した。

第3回小委員会 7月22日

修正原案と実験計画の検討を行なった。

○せっこうボード（JIS A 6901）改正

第1本委員会 7月7日

委員会構成24氏，委員長に工学院大学の狩野教授を選出。改正の要旨確認し，逐条検討と質疑応答を行なったのち小委員会の編成を決めた。

第1回小委員会 7月14日

素案の逐条審議と修正箇所の摘出を行なった。

○空洞コンクリートブロック（JIS A 5406）改正

第1回本委員会 7月7日

委員会構成22氏，委員長に工学院大学の狩野教授を選出。改正主旨の確認，生産現況，使用量，用途および品質，性能などにつき説明と質疑応答を行なったのち，小委員会の編成をとり決めた。

○家具規格体系の整備（JIS 体系の基礎調査事項）

第4回小委員会 6月28日 第5回小委員会
7月21日

規格体系の素案に対する検討を行なった。

○アルミニウム建材塗装規格 第4回小委員会

6月25日

原案名を塗膜と改称理由説明と原案の逐条検討を行なった。 第5回小委員会 7月15日

修正原案の検討，試験資料に対する検討を行なった。

（2）日本住宅公団関係（KMK）

第1回圧着部分 7月4日

陶磁器タイル圧着材料と施工法の基準作成のため，とりあえずサンプル，データを収集することおよび公団の使用実績資料の提供を受け次回研究方法を検討することとした。 第1回きれつ部会 7月4日

外装モルタルのきれつ対策のため，現行の日本住宅公団仕様書中関係事項の全面的再検討，文献と試料収集。現場実験計画案を作成することとした。 第2回きれつ部会 7月22日

公団指定の混和材料による実地試験を行なうことを決めた。

第1回プリント合板部会 7月17日

全国プリント合板製造業者よりカタログとサンプル収集。製造方法と試験方法につき専門家の意見聴取と素案検討，使用現場の実地調査を決めた。

（3）建築生産開発調査研究会

第3回委員会 7月15日 第二次調査研究の運営
に関し討議した。

（4）業務会議

本部 4回開催 中央試験所 4回開催

（5）その他

三木会（関係新聞社との懇談会） 7月17日



建材試験センター会報 Vol. 5 No. 9（9月号）

財団法人 建材試験センター

本部 東京都中央区銀座東六丁目15の1
通商産業省銀座東分室内
電話(542)2744(代)

中央試験所 埼玉県草加市稲荷町1804
電話(0489)24—1991(代)